

# 畜産みやぎ

発行所  
仙台市青葉区上杉一丁目2番16号  
宮城県畜産会  
電話 (262-9180)

編集発行人 百井英一

定価 1部60円

印刷所 K K東北プリント



入牧風景 (河北町上品山牧場)

## もくじ

畜産振興の基本方針と重点施策	2
宮城県総合畜産共進会について	4
家畜共済事業事故発生状況について	6
昭和63年度生乳計画生産について	8
宮城県畜産試験場における試験研究の現状と 平成元年度計画	9
豚の日本脳炎	10
随想	10

## 畜産振興の基本方針 と重点施策

### 宮城県畜産課

本県の畜産は、農業粗生産額の約3割を占めるまでに発展し、稲作に次ぐ基幹作物として、本県農業の健全な発展を図るうえで、極めて重要な役割を果たしております。

しかし、畜産をめぐる情勢は、需要の伸びが鈍化の傾向を示す中で、生産量の増大による需給の不均衡・畜産物価格の低迷・諸外国からの市場開放要求など、大変きびしい局面を迎えております。

このような状況の下、畜産物の安定供給と畜産経営の健全な発展を図るためには、畜産物の消費拡大を図りつつ、生産については、需要の動向に即した生産を行うとともに、より一層、高生産、低コスト畜産の推進を図っていくことが緊要な課題となっております。

さらに、消費者ニーズの多様化・産地間競争の激化に対応するため、生産能力の改善向上を促進するとともに、宮城の風土に根ざした特色のある産地・銘柄の形成、畜産物の付加価値増進等を積極的に図る必要があります。

このため、平成元年度は21世紀を展望しつつ「活力と個性に満ちた畜産の振興」を目指して次の事項を重点方針として畜産振興施策の推進を図ることとしております。

#### 1. 高生産・低コスト畜産の推進

畜産物の産地間競争の激化、輸入量の増加等に対応し得る本県畜産の体質強化を目指し、高生産・低コスト畜産経営の意識醸成、生産基盤の整備、家畜改良・増殖の推進等により、生産の高度化とコスト低減を促進する。

##### (1) 低コスト畜産経営推進運動の展開

コスト意識に基づく畜産経営を助長するため経営記帳、経営自己診断の実践を普及推進すると

ともに、自給飼料の有効利用、肉用牛・豚の一貫経営及び乳肉複合経営の促進、間伐材利用簡易牛舎の普及定着等を促進し低コスト畜産経営の確立を図る。

##### (2) 飼料基盤の拡充と効率利用の推進

草地等飼料基盤に立脚した生産性の高い畜産の確立を目指し、転作田等の有効利用や里山等未利用地の草地開発により飼料基盤の拡充を図るとともに、中核的農家を中心とした生産利用組織の育成により粗飼料の効率化を推進する。

##### (3) 家畜改良・増殖の推進

資質・経済能力に優れた生産性の高い家畜づくりを目指し、優良肉用種雄牛づくり、乳用牛群の総合改良、本年度未完成予定の系統豚の普及体制づくりを推進するとともに、双子生産・体外受精技術の開発等受精卵移植技術の実用化を促進する。

##### (4) 畜産経営環境基盤の整備促進

公害のない健全な畜産経営の展開を目指し、糞尿の農地還元を基本とした施設・基盤の整備を県営畜産経営環境整備事業等により推進する。

##### (5) 家畜保健衛生対策の推進

家畜疾病による経済的損失を最少限に防止し、健全な畜産経営の展開を図るため、家畜衛生思想の普及向上を促進するとともに、各種伝染病予防接種の徹底を図る。

#### 2. みやぎ和牛の郷づくりの推進

肉用牛を水田農業確立対策推進上の基幹作物として位置づけ、宮城県酪農・肉用牛生産近代化計画に基づき、牛肉の自由化等に対応した新たな肉用牛の振興を図るため、「みやぎ和牛の郷づくり」運動を全県的に展開し、肉用牛飼養の意識高揚を図るとともに、肉用牛生産基盤の底辺拡大とコスト低減を促進し、商品性の高い仙台牛の産地育成と低コスト大衆牛肉生産拡大を積極的に推進する。

##### (1) 仙台牛産地化の推進

商品性の高い仙台牛の産地化を推進するため、肉質と増体能力に優れた種雄牛づくり及び繁殖雌

ビフィズス菌は

生きてそのまま腸までとどきます。

● **ビヒダス**®

ヨーグルト 500ml

宮酪乳業株式会社

名取市飯野坂五丁目1番3号  
☎ (022) 384-5181

発育促進・食欲増進・栄養補給に

**バイミルク**

ビタミン・ミネラル総合飼料添加剤

日本全薬工業株式会社

牛群の充実強化を図る。また、仙台牛を消費者に普及し銘柄の確立を促進する。

(2) 低コスト肉用牛生産の推進

酪農及び肉用牛経営の安定と雌資源の有効活用を図る観点から、交雑種肉用牛の生産拡大並びに肉用牛一貫経営を促進しながらその定着を図るとともに、間伐材等を利用した低コストモデル牛舎の開発を進め交雑種肉用牛生産も合わせ一体的な実証展示を推進する。

(3) ふるさと牛飼いの推進

肉用牛生産基盤の拡充と肉用牛の飼育がもつ高齢者の生きがい対策、農村子弟の情操教育等多面的な機能を通じて「ゆとりとうるおいのある地域づくり」に資するため、県・市町村・農業団体・生産者等が一体となり全県的な「みやぎ和牛の郷づくり運動」として各地域の肉用牛振興対策の樹立、広報キャンペーン等を実施する。

3. 需給動向に即した計画的・個性的畜産の推進

畜産物の需給情勢及び今後の消費者ニーズの変化の動向をふまえ、酪農、養豚、養鶏の計画生産を進める一方、新畜産の導入等により個性に満ちた畜産の形成を図る。

(1) オリジナリティ畜産の展開

畜産物に対する消費者ニーズの多様化・産地間競争の激化に対応し、本県の風土に根ざした特色のある産地・銘柄の形成、新畜種の導入等を推進し、バラエティーに富んだ畜産の形成を促進する。

(2) 酪農、養豚、養鶏の計画生産の推進

全国的な需給動向を踏まえ、生乳、豚肉、鶏卵、鶏肉の適正な価格形成の確保も将来に亘って当該畜産物生産の健全な発展に資するため、生乳流通改善対策、肉畜鶏卵生産出荷調整対策等を通じて生産者及び生産者団体が自主的に行う計画生産の円滑な推進を図る。

4. 畜産物の消費拡大・価格・流通対策の推進

畜産物の安定供給と生産領域の拡大を目指し、仙台

牛、宮城のフレッシュ牛乳をはじめ県産畜産物の県内外における消費拡大対策を促進するとともに、生産者価格の安定と流通の近代化・合理化対策を推進する。

(1) 畜産物消費拡大の推進

「消費あつての生産」の基本認識の下に、仙台牛、牛乳製品をはじめ、それぞれの畜産物について、生産者・生産者団体・関係業界が一体となって展開するイベント等の各種販路拡大活動を支援助長するとともに、学校給食用牛乳供給事業を推進する。

(2) 畜産物の流通改善の推進

消費者に対する畜産物の流通コストの節減、合理化を目指し、食肉流通公社の経営改善を図るとともに、指定生乳生産者団体を中心とした生乳の一元集荷販売体制及び家畜市場を中心とした肉畜流通体制の強化等を推進する。

(3) 畜産物価格安定対策の推進

肉用子牛価格安定制度の拡充強化を図るほか、畜産物価格安定基金、配合飼料価格安定基金等への畜産農家の加入を促進する。

5. 高度な畜産技術開発・情報システム化の推進

21世紀を展望した本県畜産の飛躍的な発展と多様な展開を目指し、牛の受精卵移植技術の実用化を促進するとともに、畜産農家が必要とする畜産経営、技術等の情報を迅速に提供していくための畜産技術情報システムの充実を図る。

以上、施策の概要を列記しましたが、実施に当たっては、市町村、関係機関、団体、農家の皆さん方と一体となって推進して参りたいと思います。



飼料は



採卵鶏用配合飼料  
ブロイラー配合飼料 肉用牛配合飼料  
乳用牛配合飼料

北日本飼料株式会社

石巻市川口町3丁目2番8号

TEL 石巻 0225 (22) 6111  
FAX 石巻 0225 (22) 6116

動物用 (牛専用)  
医薬品

トルラミックス

特殊酵母十必須ビタミン十ミネラル配合

株式会社 トーシン

古川市古川字上古川屋敷9番地の1  
TEL 0229 (24) 3 2 1 1 (代)

# 宮城県総合畜産共進会 について

## 宮城県畜産会

本県家畜の改良意欲の高揚並びに飼養技術の向上と健全な畜産振興を期すため、昨年まで畜種別に共進会を開催しておりましたが、平成元年度より下記要領(抜すい)で宮城県総合畜産共進会を開催いたすこととなりましたのでお知らせいたします。

### 宮城県総合畜産共進会開催要領(抜すい)

#### 1. 目的

この共進会は農林水産祭参加宮城県総合畜産共進会と称し、本県家畜の改良意欲の高揚並びに飼養技術の向上と健全な畜産振興を期する。

#### 2. 名称

平成元年度宮城県総合畜産共進会

#### 3. 主催

社団法人 宮城県畜産会

#### 4. 共催

宮城県畜産農業協同組合連合会  
(社)日本種豚登録協会宮城県支部  
宮城県経済農業協同組合連合会  
宮城県家畜商協同組合  
宮城県生乳販売農業協同組合連合会

#### 5. 後援

宮城県、鳴子町、畜産関係団体、報道機関

#### 6. 会期及び場所

会期 平成元年 9月29日～10月1日  
場所 川渡家畜市場

#### 7. 出品区分及び資格

- 1) 乳用牛の部……別紙
- 2) 肉用牛の部(黒毛和種・褐毛和種)……別紙
- 3) 種豚の部……別紙
- 4) 各部とも月令は開催日の前日とする。

#### 8. 出品申込み

出品者は、別紙様式の出品申込書を平成元年9月9日まで各家畜保健衛生所を通じ、宮城県畜産会に提出するものとする。

#### 9. 出品家畜の搬入、搬出

- 1) 出品家畜は、平成元年9月29日午前9時までに会場に搬入し、閉会後搬出する。
- 2) 出品家畜は会期中場外に搬出してはならない。ただし、会期中特別な事由によりやむを得ないと会長が認めるときはその限りでない。

#### 10. 出品家畜の保護及び健康検査

- 1) 出品家畜の不可抗力による損害については、その責任は負わない。
- 2) 出品家畜は搬入の際に健康検査を行い、疾病悪

癖、その他の事由により他に危害を及ぼすおそれがあると認めるときは、その家畜の出品を拒絶することができる。なお、種豚にあっては豚コレラ、豚丹毒予防注射済みのもの並びに、オーエスキー抗体陰性豚の証明を有するものとする。但し、抗体検査は平成元年8月15日以降に1回以上の検査を受けたものとし、当該家畜保健衛生所長の発行する証明書を搬入の際提出するものとする。

### ※ 出品区分及び資格

#### 1. 乳用牛の部

区分	資格
第1区	ジュニアクラス 未経産 生後10カ月以上18カ月未満
第2区	ハイジュニアクラス 生後18カ月以上28カ月未満
第3区	2・3オクラス 経産
第4区	4才以上成牛クラス
第5区	多回検定 2回以上検定をうけ、2回の平均能力 指数170以上のもの

- (1) 出品牛はホルスタイン種牛又は同種系牛で、いずれも国内産登録牛であるもの。
- (2) 第1区から第3区までの出品牛は、県内産でかつ出品者が6カ月以上所有、飼養しているもの。
- (3) 第4区からの出品牛は、出品者が1年以上所有、飼養しているもの。
- (4) 第5区は日本ホルスタイン登録協会による検定成績証明を2回以上有し、その平均F能力指数が170以上のもの。
- (5) 未経産牛で生後24カ月以上のものは妊娠確定であるもの。
- (6) 同一区内に双子を出品させることはできない。
- (7) 出品牛は他区と共通できる。  
(ただし、2区迄とする)
- (8) 経産牛各区分にベストアダーを選出する。

#### 2. 肉用牛の部

区分	資格
第1区	若雌の1 生後10カ月以上14カ月未満
第2区	" 2 生後14カ月以上17カ月未満
第3区	" 3 生後17カ月以上20カ月未満
第4区	" 4 生後20カ月以上24カ月未満
第5区	経産の1 生後4才未満
第6区	" 2 生後4才以上
第7区	繁殖雌牛3頭群
第8区	高等登録群
第9区	改良組合繁殖牛

- (1) 出品牛は、黒毛和種及び褐毛和種の雌牛で登録牛又は登記牛とする。
- (2) 出品牛はすべて県内産とする。
- (3) 出品牛は同一で第1区ではすべて自家産牛、第2区では3カ月以上、第3区では6カ月以上、第4～第6区は10カ月以上所有し、飼養されたもの。
- (4) 第7～第8区は個人出品とし、第9区は改良組合単位とする。
- (5) 全共出品牛又は県共出品牛の最高位牛は同区に出品出来ないものとする。
- (6) 出品牛は他区と共通できる。  
(ただし、2区迄とする)

3. 種豚の部

区分	資格
第1区	未経産 生後8カ月以上12カ月未満
第2区	経産 生後12カ月以上
第3区	雄 生後8カ月以上
第4区	母娘群 母豚 生後12カ月以上 娘豚 生後8カ月以上12カ月未満

- (1) 出品豚は種豚登録対象品種とし、種豚登録または子豚登記豚とする。
- (2) 出品豚は県内産で出品者において3カ月以上飼育されたもの。但し、直接検定豚の飼養期間はこの限りでない。
- (3) 第1区は出品豚の父母のいずれか1頭以上が産肉登録豚、又は繁殖登録豚とする。
- (4) 第2区は、繁殖登録豚以上のものとする。
- (5) 第3区は、出品豚自身が産肉登録豚、又は豚産肉能力検定合検豚とする。
- (6) 母1・娘1(同腹豚)をもって1組とし、同一人の所有で個体出品以外のものとし、繁殖登録豚、娘豚は未経産とする。

地区別出品頭数

1. 乳用牛の部

地区名 区分	大河原	仙台	古川	迫	築館	石巻	計
第1区	2	2	2	2	2	2	12
第2区	2	2	2	2	2	2	12
第3区	2	2	2	2	2	2	12
第4区	2	2	2	2	2	2	12
第5区	1	1	1	1	1	1	6
計	9	9	9	9	9	9	54

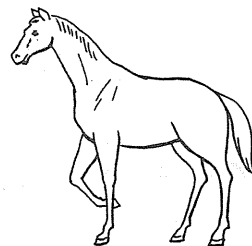
2. 肉用牛の部

地区名 区分	大河原	仙台 (褐毛)	古川	迫	築館	石巻	計
第1区	1		3	2	1	1	8
第2区	1		3	2	1	1	8
第3区	1	4	3	2	1	1	12
第4区	1		3	2	1	1	8
第5区	1		3	2	1	1	8
第6区	1	4	3	2	1	1	12
第7区			1組 (3)	1組 (3)	1組 (3)		3組 (9)
第8区			1組 (3)	1組 (3)	1組 (3)		3組 (9)
第9区			3組 (9)	3組 (9)	3組 (9)		9組 (27)
計	6	8	18 5組 (15)	12 5組 (15)	6 5組 (15)	6	56 15組 (45)

3. 種豚の部

地区名 区分	大河原	仙台	古川	迫	築館	石巻	計
第1区 未経産	2	2	2	2	2	2	12
第2区 経産	2	2	2	2	2	2	12
第3区 雄	2	2	2	2	2	2	12
第4区 母娘群	1組 (3)	1組 (3)	1組 (3)	1組 (3)	1組 (3)	1組 (3)	6組 (18)
計	6 1組 (3)	6 1組 (3)	6 1組 (3)	6 1組 (3)	6 1組 (3)	6 1組 (3)	36 6組 (18)

# 畜産振興の明日を 担う地方競馬



地方競馬全国協会

### 家畜共済事業事故発生状況について

#### 宮城県農業共済組合連合会

昭和63年度の事故発生状況は(表1)のとおりである。

死産事故は、乳用牛、特定肉用牛等で増加したが、肥育牛、種豚において減少したため、発生頭数は5,920頭で前年度に対し、142頭減少した。

支払共済金は728,643千円となり、2,815千円減少した。

病傷事故は特定肉用牛等で大幅に増加した結果、合計で前年度に対し、3,246件増加したが、支払共済金は426千円の増加にとどまった。

合計の支払共済金は、事故防止対策、病傷給付の適正化等につとめた結果、2,390千円前年度より、支払いが減少した。

主な疾病別死産事故状況は(表2)のとおりである。多発している疾病は例年と同じ傾向にあるが、乳牛では産前(後)起立不能、関節炎が増加しているが、乳房炎は大幅に減少している。

また肥育牛はほとんどの疾病で減少しており、特定肉用牛等については胎児死、新生児死を中心に増加している。(家畜課 菊地)

表1 昭和63年度家畜共済事故実績表

畜種	年度	死産事故			病傷事故		
		頭数	共済金	1頭当り共済金	件数	共済金	1件当り共済金
乳牛の雌	63	1,667頭	275,621,546円	165,339円	29,715件	327,924,946円	11,035円
	62	1,652	262,843,424	159,106	28,863	332,576,499	11,522
	63/62	100.9%	104.9%	103.9%	103.0%	98.6%	95.8%
肥育牛	63	1,091	210,887,605	193,297	11,000	101,060,420	9,187
	62	1,305	243,129,909	186,306	11,610	113,941,070	9,814
	63/62	83.6%	86.7%	103.8%	94.7%	88.7%	93.6%
特定肉用牛等 胎児・出生子牛以外	63	468	114,809,445	245,319	23,811	179,029,570	7,518
	62	411	95,239,663	231,726	22,342	176,473,598	7,898
	63/62	113.9%	120.5%	105.9%	106.6%	101.4%	95.2%
特定肉用牛等 胎児・出生子牛	63	1,081	70,453,906	65,174	11,316	111,174,380	9,824
	62	997	63,556,890	63,748	9,645	93,704,670	9,715
	63/62	108.4%	110.9%	102.2%	117.3%	118.6%	101.1%
一般馬	63	3	1,305,720	435,240	135	1,095,790	8,116
	62	12	5,103,702	425,308	118	1,085,290	9,197
	63/62	25.0%	25.6%	102.3%	114.4%	101.0%	88.2%
種豚	63	791	43,587,080	55,103	2,208	14,806,480	6,705
	62	942	50,331,058	53,429	2,361	16,884,720	7,151
	63/62	84.0%	86.6%	103.1%	93.5%	87.7%	93.8%
肉豚	63	819	11,978,000	14,625			
	62	743	11,254,000	15,146			
	63/62	110.2%	106.4%	96.6%	%	%	%
合計	63	5,920	782,643,302	123,081	78,185	735,091,586	9,401
	62	6,062	731,458,646	120,662	74,939	734,665,845	9,803
	63/62	97.7%	99.6%	102.0%	104.3%	100.1%	95.9%

※病傷事故の特定肉用牛等(胎児・出生子牛以外)には、肉用種雄牛を含む。

**新発売**

乳牛の生産性向上に  
—乳房炎対策—  
**くみあいイオサンGL**  
(乳頭浸漬消毒剤)

—ビタミン補給—  
**くみあいビタA10**  
**ハイビタADE** (飼料添加物)

農協・宮城県経済連

2年連続上物数

日本一!

仙台南銘柄推進協議会

正統の  
育ちと味


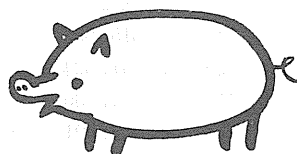


表2 昭和63年度家畜共済死廃事故主要疾病別内訳

順位	(乳牛の雌)											(肥育牛)														
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11~	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11~				
病名	産前(後)起立不能	関節炎	第四胃変位	骨折・脱臼	乳房炎	心臓衰弱	腰痠	肝炎	子宮脱・膣脱	敗血症	その他	肺炎	鼓脹	尿管石	骨折・脱臼	心臓衰弱	腸胃腸脂肪壊死症	第四胃変位	関節炎	ソムナス感染症・ヘモフィルス	胃腸炎青腸カタル	その他	合計	前年対比		
白石	50	69	30	43	37	11	8	8	7	11	89	363	Δ 57	44	27	17	10	8	6	17	7	0	2	52	190	Δ 141
角田	16	30	11	22	18	8	2	0	4	10	35	156	Δ 2	6	2	2	2	2	1	1	3	2	1	11	33	3
名取	29	26	19	16	8	6	6	13	6	1	41	171	3	12	18	16	6	1	2	0	1	5	5	17	83	Δ 4
大衡	8	6	2	6	3	3	0	3	2	2	15	50	21	11	12	15	9	6	2	10	8	2	2	33	110	20
中新田	26	23	28	20	16	13	8	5	7	1	38	185	53	3	16	16	6	0	0	0	3	3	4	11	62	Δ 15
古川	45	23	40	21	23	9	11	9	8	13	71	273	10	16	28	22	14	4	8	12	3	7	8	41	163	Δ 27
築館	30	20	17	8	12	2	9	1	6	2	38	145	23	10	7	14	3	10	2	1	2	5	6	21	81	Δ 4
迫	31	8	9	9	7	17	10	4	2	2	28	127	Δ 28	21	9	22	14	21	27	5	4	4	1	55	183	Δ 33
本吉	5	1	6	4	2	2	3	2	2	0	14	41	0	5	2	0	1	0	0	0	1	0	2	11	Δ 1	
石巻	19	25	21	9	19	6	2	6	5	0	44	156	Δ 8	24	30	18	13	10	12	6	9	6	6	41	175	Δ 12
計	259	231	183	158	145	77	59	51	49	42	413	1,667	15	152	151	142	78	62	60	52	40	35	35	284	1,091	Δ 214
前年度	228	216	204	169	213	49	49	29	32	37	426	1,652		206	187	139	118	61	74	67	34	38	33	348	1,305	
増減	31	15	Δ 21	Δ 11	Δ 68	28	10	22	17	5	Δ 13	15		Δ 54	Δ 36	3	Δ 40	1	Δ 14	Δ 15	6	Δ 3	2	Δ 64	Δ 214	

(特定肉用牛等)													
順位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11~	合計	前年対比
病名	胎児死	新生児死	胃腸炎青腸カタル	心臓衰弱	肺炎	腸胃腸脂肪壊死症	白痢	鼓脹	骨折・脱臼	窒息	その他	合計	前年対比
白石	7	16	9	4	4	8	6	1	2	1	18	76	24
角田	6	11	6	2	0	1	0	3	1	0	9	39	9
名取	15	12	0	3	2	7	0	1	0	1	9	50	14
大衡	7	14	6	3	2	1	1	0	0	0	12	46	4
中新田	40	51	15	16	10	16	10	6	4	1	21	190	7
古川	92	71	44	8	25	18	9	13	8	8	68	364	55
築館	86	47	17	13	10	6	17	6	5	3	60	270	Δ 31
迫	94	43	15	61	23	14	4	6	4	5	78	347	27
本吉	27	8	4	4	2	2	1	1	2	0	10	61	26
石巻	24	10	13	8	9	10	5	4	4	2	17	106	6
計	398	283	129	122	87	83	53	41	30	21	302	1,549	141
前年度	334	242	113	101	60	95	48	35	32	42	306	1,408	
増減	64	41	16	21	27	Δ 12	5	6	Δ 2	Δ 21	Δ 4	141	



動物用薬品器材のことなら 古い伝統  
と信頼のある東北獣医にご用命下さい

本社 仙台市青葉区上杉3丁目3-8

**東北獣医薬品株式会社**

TEL (225) 73330・73338・73339

仙台営業所 仙台市青葉区上杉三丁目3-8

022 (225) 7338~9

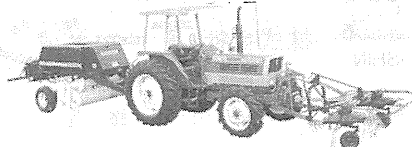
古川営業所 遠田郡小牛田町字関根館野28

0229 (34) 2018~9

仙北営業所 登米郡迫町佐沼字萩洗1

0220 (22) 2278

**WORLD** トラクター  
**サンシャイン**



**株式会社 五十嵐商会**

仙台市若林区卸町五丁目1番地4  
電話(022)236-2525(代表)

# 昭和63年度生乳計画 生産について

## 宮城県生乳販売農業協同組合連合会

昭和63年度生乳需給状況については、過去2年にわたる減産計画から一転して大幅な増産計画となったため、上期は増産体制に入れず前年比101.9%と計画をかなり下回る結果となった。

しかし、需要期に入って酪農家並びに関係者のご努力により生産は順調に推移し11月過ぎからは対前年比109%以上の大幅な増産となった。

用途別については、飲用向けは62年度後半から引きつづき対前年比104~5%と好調な伸びを示した。さらに醗酵乳等向けやチーズ向けも前年を上回ったが乳製品等向けについては、昨年に引き続き計画を大幅に下回り、約5,000トンの未達となった。

即ち、昭和63年度生乳計画生産は、昭和61~62年度

生乳製品過剰在庫から一転して逼迫状況を呈し、前年計画比105.4%と例年でない目標数量となり、更に乳製品の適性在庫を図るべく新たに特別調整乳制度の導入の中で、本県は4,300トン余りの申込をした為108%近い目標数量になってしまいました。その為各組合では増産体制を図るため家畜導入や飼料給与の改善、更には経営の合理化指導による増産対策を講じた結果順調な伸びを示すに至りました。

計画生産達成状況については、下記のとおりになっております。

	生乳生産量	対前年比
第1四半期	41,767トン	100.4%
第2四半期	41,151トン	103.4%
第3四半期	41,186トン	108.0%
第4四半期	42,424トン	108.1%
年度計	166,528トン	104.9%

### 昭和63年度会員別生乳計画生産実績

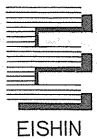
	昭和63年度受託乳量		
	受託乳量	前年比	計画比
蔵王酪農	31,394,576 kg	108.70%	100.20%
宮城酪農	45,518,309.8	103.67	100.95
経済連	31,149,267	105.64	101.15
仙台酪農	6,777,667	106.10	100.00
県酪連	25,385,366.5	105.06	99.94
栗原酪農	7,815,658	105.37	101.07
登米酪農	6,531,324	99.31	98.62
本吉酪農	5,622,730	97.47	98.64
遠田酪農	4,569,391	108.25	100.51
山田酪農	1,763,576.5	107.92	103.01
合計	166,527,865.8	105.10	100.49

- (注) 1. 前年比は62年度出荷乳量(受託乳量-全乳哺育)対比にて算出  
 2. 計画比は修正目標対比にて算出

(武田良介)

# 美と健康に牛乳を

## 宮城県牛乳普及協会



クスリの総合卸


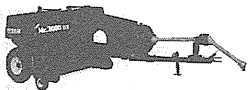
株式会社 **イーシン**

取締役社長 山田 修造

畜産営業所 仙台市青葉区木町通り1-5-19 ☎(022)267-7211  
 古川市福浦字道の上137-1 ☎(0229)24-1211

本社 仙台市若林区卸町2丁目10-3 ☎(022)284-8111

より豊かな明日の農業のために

頼もしい働き者  
牧草梱包稲わら梱包に!!

Mr1000 Mr2000DX ヘーベラーTHB2020  
Mr3000DX、Mr4000DX

**スター農機株式会社** 仙台営業所

985 多賀城市町前2丁目87 TEL022-367-4573  
FAX 367-4846



< 畜試便り >

宮城県畜産試験場における試験  
研究の現状と平成元年度計画

各種畜産物の需給不均衡，諸外国からの輸入自由化攻勢等，近年，わが国の畜産を取り巻く情勢は誠に厳しいものがあります。この厳しさを克服するためには高品質，低コストでユニークなものを生産する必要があり，畜産農家ではその様な技術の一刻も早い確立を待望しております。

畜産試験場ではそれにできる限り早急に答えるべく，種々の試験研究を推進してきており，その主なものは次の通りです。

(1)牛の受精卵移植及び関連技術に関する研究

昭和58年度から研究に着手している牛の受精卵移植技術の成績は年々向上し，63年度実績では140頭に移植し，受胎頭数79頭，受胎率56.4%に達しております。また，関連技術として，双子生産技術，凍結保存技術，卵の性判別，体外受精等の研究に着手し既に実証例もあります。本年度は受胎率の向上をめざすとともに，受精卵生産コスト低減に向けて体外受精等の関連技術の精度向上をめざします。

(2)肉牛の高生産性技術に関する研究

肉質を確保しながら増体を高める目的で黒毛和種とホルスタイン種との交雑種（F<sub>1</sub>）の性能について検討しており，F<sub>1</sub> 去勢牛の産肉成績は生後22ヶ月で体重681kg，1日当たり増体重1.1kg，枝肉等級B 4～B 3でありました。また，F<sub>1</sub> 雌牛の利用技術についても検討しております。さらに黒毛和種の優良種雄牛選抜のための産肉能力検定を継続実施しております。

(3)乳牛の高生産性技術に関する研究

高泌乳牛の繁殖性向上を図るため，分娩前後の飼養法について試験を実施した結果，脂溶性ビタミン（β-カロチン，ビタミンE）の添加が繁殖機能回復に有効であると判明しました。本年度はミネラルの添加試験を行う予定であり，また，昭和51年より行っている優

良乳用種雄牛選抜のための能力検定も継続実施しております。

(4)ランドレース種系統豚の造成に関する研究

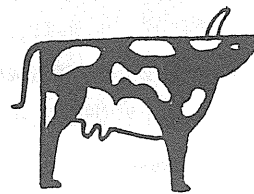
低コスト高品質豚肉生産を目的に，宮城の銘柄豚づくりを目ざして昭和58年からランドレース種の系統造成試験を実施しておりますが，今年最後の第6世代の能力検定と選抜を実施し，平成2年2月には系統豚の認定を受ける予定になっています。本年度からさらにこの系統豚の能力，特徴をフルに生かす飼養管理方法のマニュアル作りのための試験研究もはじめました。

(5)低未利用資源の簡易調製技術による飼料価値向上に関する研究

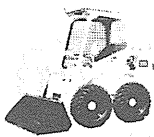
本県の基幹作物の副産物である稲わらの飼料としての利用効率を高めるための試験研究を行っております。現在までに，アンモニア添加により飼料価値が向上し家畜の嗜好性，消化率がアップすることがわかっております。本年度からは粕類等低未利用資源を組合せた混合飼料の簡易調製貯蔵試験を実施します。

以上主な試験研究課題について概略を説明してきましたが，当試験場ではこの他にも種々試験研究を実施し飼料生産から畜産物の生産まで一貫した流れの中で高生産性畜産技術の確立とオリジナル畜産の開発を推進してまいります。

(酪農肉牛部乳牛科，吉野淳良)



TCM東洋運搬機



糞尿処理工程のあらゆる局面で活躍。  
畜産農家の近代化に  
作業の省力化に大きく貢献します。  
豊富なアタッチメント。

TCM東洋運搬機株式会社  
東北ディー・シー・エム株式会社

983 仙台市宮城野区中野字葦畔135-1  
電話 022-259-6351

畜産の健康と未来に貢献する

獣医用薬品・畜産用医薬品・ワクチン・器具機材

小田島商事株式会社

本社 岩手県花巻市卸町66番地  
TEL 0198 064151(代)

古川営業所 宮城県古川市稲葉字大江向179-1  
TEL 0229 023888(代)

花巻営業所	水沢営業所	青森営業所
盛岡営業所	大館営業所	八戸営業所
大船渡営業所	横手営業所	山形営業所
酒田営業所	福島営業所	

### 豚の日本脳炎

繁殖豚での死流産や種雄豚の造精機能障害を起こす原因の1つとして日本脳炎ウイルスの感染があげられます。また本病は人畜共通伝染病として、蚊、豚、人との間で流行することから公衆衛生上からも注目されています。すなわち保毒しているコガタアカイエカが豚を吸血し、豚体内でウイルスが増殖され、この感染豚から吸血することにより大量の有毒蚊が発生することにより流行するとされています。そして妊娠中の母豚が感染することにより、胎児が死亡し死流産となって見られます。

本病の流行時期は、一般に初夏から夏にかけてであるが、その年の気候や地域により異なり、毎年流行状況にも差が見られている。豚における異常産の発生は、8月からみられ9～10月をピークに11月頃までみられるのが一般的であり、特に初産の秋子に多発する傾向があります。死流産の予防法としては、現在宮城県では、初産、経産豚に対して生ワクチン2回接種により実施しています。ワクチンの接種時期は、その地域の流行状況に左右されますが、流行開始時の1ヶ月前にはすでに2回目の接種が終了していることが望ましいと考えられます。

流行の状況については、豚の本病に対する抗体の動きによって推定することになりますが、昭和63年度における県内各地区から採取された豚抗体調査成績は下表のとおりです。冷夏だった昨年は7～8月頃からの流行が認められていますが、低流行の年であったと言えるようです。

昭和63年度豚日本脳炎抗体調査成績

採材場所\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
陽性率	28.4	34.6	6.6	34.2	28.6	48.9	36.0	56.5	52.7	29.9	60.7	19.7	%
県全体													
陽性数	27,95	30,88	6,91	27,79	22,77	44,90	31,86	52,92	49,93	23,77	51,84	14,71	頭

(仙台家畜保健衛生所 高橋勝一)

### 随想

### 純粋種と雑種

純粋種とはホモ化した遺伝子 (AA, aa) を多くもつもの、そして純粋種の中でも更にその傾向が強いものを我々は一般に系統と呼んできた。生産現場において純粋種経営は高度な飼育管理技術と経営者としてのすぐれた能力 (鑑識眼) を持ち、飼養農家は初心者より経験豊かな人において成功している人が多い傾向にある。一方、雑種はヘテロ遺伝子 (Aa) をもち、その利用は、純粋種に比較して飼い易さから、生産の効率化と生産物の価値向上を最大限に求めてきた。この形態は自然が純粋種に対して厳しい環境を与え、雑種はヘテロシス及び補完的效果を作り出して対環境対策を生み出したからに違いない。私の人生においても、純粋犬と雑犬を飼育した経験を比べて考える時、前者は相当に慎重に飼いながら短命であり、後者は放任状態で粗食に耐え、かつ長命であったことの差でも感じられる。農業において安定性と法則性という条件が一貫して得られる時、人間は合理的改善を行ってきた。同じ合理主義を取得しながら、本国に純粋種が多く、ヨーロッパに雑種が定着した根底に、会田雄二氏は和辻哲郎の文献を引用して風土の違いを論じている。しかし、最近の本国の畜産現場において、雑種の台頭は見のがせない。交雑種肉用牛、三元交配による肉豚生産、交雑鶏いずれも雑種である。これら雑種生産には一定の留意事項があって勝手な乱雑種の意味ではない。純粋種は飼いにくく、リスクの大きな部門を持つ場合があるが、血統維持のためには大きな責任が負わされている。一方、交雑種は飼い易いが利用の基本にデータの記録整理が必要であり、望ましい形質が飼養環境によってどのように調和し発現しているか、どの様に改善すれば更に効果的かの判断が必要であるからだ。雑種も育種プランによって実行することが大切である。

(宮城県畜産課長 粕谷光)



ともに前進 技術のオリオン

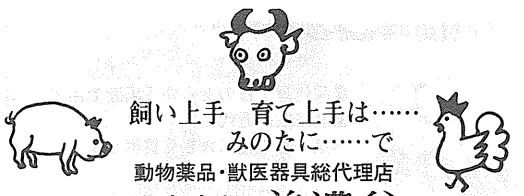
## 酪農家の

声を反映した製品づくりと安心の  
おけるアフターサービスは  
オリオングループの誇りです。



### 東北オリオン株式会社

本社 〒983 仙台市若林区鶴代町1番68 ☎(022)284-0691  
 宮城営業所 古川市福浦字道の上106番1号 ☎989-61  
 TEL古川(0229)23-1631



飼い上手 育て上手は……  
みのために……で  
動物薬品・獣医器具総代理店

## 株式会社 美濃谷

山形市蔵王成沢字町浦491～2 TEL883121  
 仙台市太白区山田字羽黒堂5番216 TEL2404306  
 鶴岡店 鶴岡市大字布目字東通り57-1 TEL240963  
 いわき店 いわき市常磐湯本栄田3 TEL024640300